

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	國井 享奈
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	介護老人保健施設に勤める看護職・介護職の利用者に対する陰性感情がバーンアウトに与える影響		
審査結果(枠で囲む)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 合格 不合格 </div>		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究は、介護老人保健施設の看護職・介護職の利用者に対する陰性感情がバーンアウトに与える影響を明らかにすることを目的とし、介護老人保健施設の看護職と介護職 1,695 名を対象に有効回答を得られた 966 名を 6 か月追跡しバーンアウトを評価した。看護職、介護職及び全体の関連要因を比較した。その結果、介護職が看護職より陰性感情を持ちやすく、バーンアウトしやすいこと、看護職と介護職の共通の影響要因は、陰性感情と「自分の健康を維持できない」であった。看護職では「受け身的に生じる陰性感情」「介護老人保健施設の仕事に向いていると思わない」、介護職では、「看護職(介護職)側が利用者を持つ陰性感情」「チームケアの方針を決定のため自由な発言が認められていない」がバーンアウトに影響していることが明らかになった。</p> <p>本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認(17-Ig-17)を受けて実施しており、倫理的に問題はなかった。</p> <p>2. 研究の意義</p> <p>介護人材不足が大きな社会問題になっている中、本研究は、老人保健施設の看護職や介護職の離職につながるバーンアウトに与える影響要因の解明を目的としている。看護職と介護職の職種によるバーンアウトの影響要因の違いを明らかにしたことに新規性があり、介護福祉士のほうが陰性感情を持ちやすいことも判明した。バーンアウトを予防するための具体的な対策につながる示唆が得られ、今後介護老人保健施設の仕事の特性を踏まえた支援の検討につながり、意義ある研究と評価できる。</p> <p>3. 審査経過</p> <p>初回審査会(11月27日)を遠隔システムでキャンパス間をつなぎ開催した。口頭試問では、なぜ介護老人保健施設における看護職・介護職のバーンアウトに注目したのか、陰性感情の説明と陰性感情尺度の使用、統計的処理について質問を行い、ほぼ適確に回答できたが、一部不十分なところもあり、追加説明や修正および論文構成の再編を求めた。第2回審査会(12月26日)では、論文全体の構成について、さらに再修正を求めた。その結果1月7日に修正論文が提出され、的確に修正されていることを3審査員で確認した。</p> <p>4. 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div>主 査</div> <div>世良 喜子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div>副 査</div> <div>赤居 正美</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div>副 査</div> <div>丸木 一成</div> </div>		